



馬耳東風

目が離せない世界の動きのなかで、投資競争に明け暮れる米国発信の金融危機が世界を駆け巡った。流石にEUの対応はすばやかだった。経済・通貨統合の実現による認識の一致と対応は予測をされながらも発信地の混乱に先んじて制御したかに見えた。つづいてG7がロシアの参加でG8となり、さらに中国を含む新興国も加えてG20やAPEC開催となり対応の加速が期待される。まさに地球上を駆け巡る資本主義的自由競争激化のなかで、世界の工場を自負する中国の構え方がおおきな関心事である。餃子にはじまる食の安全がメラミン騒動で追い討ちをかけられた。偽装食品どころか偽造による健康被害はついに人の多数発生を引き起こした。畜産農家やペット飼育者は動物に異常が発生すると原因として短絡的に結び付けやすい。情報の氾濫のなかで不安が増幅され、手持ちの飼料を持参して給与の是非判断を求められたりする始末だ。日本では飼料安全法以前の次元の問題のようだ。残念ながら中国のモラルの低下が叫ばれ幹部の腐敗や、地下経済は言うに及ばず環境破壊は極めて重大である。孔子が「仁・礼」を説き、孟子が「教以人倫父子有親君臣有義夫婦有別長幼有序朋友有信」と説く五常の仁・義・礼・智・信を生んだ東洋の儒教哲学の国は一体どこへ行ってしまったのか。急速な経済発展は、資本優先が顕在化することにより性善説に裏打ちされる哲学をまるで否定しているようで残念でならない。

過般、都内の大学で中国の環境協力についてのシンポジウムが開催され、国内対応とともに中国の研究者や留学生を交えて地球市民的な課題が提起された。オリンピック時のあの北京の空の美しさを継続できまいかと、世界第二位のガス排出国家への素直な願いと期待である。ここまでの一次責任は先進国にあるとする考え方は、まさにそのとおりとして理解できなくはない。しかし中国が責任逃れの第三者的傍観者で居られないのも事実で、世界世論が納得しないだろう。あの公害に苦しんだ川崎市が取り組んだ具体的な対応を阿部市長自らが「川崎市へ来れば環境のことが分かる。知的財産交流に取り組む。」と積極的に提示されその熱意と対応に感銘をうけた。従来の中国側の考え方は、いわゆる「発展権」を優先させてきたが、応分の責任を果たす方向にあるといい、コ・ベネフィット対策として省エネ、低炭素、森林面積の拡大を図っているという。中国の課題は、大気汚染・温暖化・ゴミ問題等であり、オリンピック後の経済の減速が見込まれるなかで市民の環境への向上心をいかに加速させるか、広い国土だけに地域割当の考え方も示された。日本側の技術と中国側の市場が互恵の立場に立って継続的発展的に維持されるためには、知的所有権の保護も必要であり、その為の中国側の法整備の必要性を若い熱心な中国留学生たちも理解し、やがて拡大してアジア地域へと日本の方向づけが示されたと受け止めた。

(柏)